|  |  |
| --- | --- |
|  | 大崎地域を世界農業遺産へ Vol.12  市長コラム 天地人 |
|  | 大崎市誕生10周年記念事業3大事業  出場者・観覧者の受付開始 |
|  | 男女共同参画週間 |
|  | 未然に災害を防ぐために |
|  | 十年物語　～おおさき人の軌跡～  　大崎市食生活改善推進員連絡協議会会長  渡邊 安子（わたなべ　やすこ） さん  　大崎市男女共同参画審議会副会長  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　氏家 美津枝 （うじいえ　みつえ）さん |
|  | つながる・むすぶ・つむぐ 姉妹都市のきずな  　発泡酒「あ・ら・な関係」 |
|  | 市政トピックス　5月の主な出来事 |
|  | 地域発！お・ら・ほ・の・ま・ち |
|  | オオサキプレイガイド |
|  | 市職員を募集します　ほか |
|  | 今月のお知らせ |
|  | 子育て支援情報 |
|  | 育児相談・乳幼児健診 |
|  | 休日当番医　ほか |

6月号の主な内容

今月の表紙

5月29日、松山B&G海洋センター体育館で「祝 大崎市誕生10周年記念 第44回中学校招待親善卓球大会」が行われました。この大会は、県内中学校卓球部の交流と技術の向上を目的に毎年開催されており、今年で44回目の開催となります。

　当日は、県内の中学校から男子27チーム、女子23チームが参加し、日々の練習で磨いた実力を競い合いました。試合はトーナメント方式の団体戦で行われ、鋭い打球や気迫を込めた一打で得点を狙う姿、きわどい打球を拾う好プレー、チームワークを活かしたダブルスなど、選手たちの活躍が会場を沸かせていました。

　白熱した試合の結果、男子は古川北中学校Aチーム、女子は松山中学校Aチームが優勝しました。 １しっかりと球筋を捉えて、取りこぼさないよう丁寧に打ち返します

２台の上を往復する打球の音が、リズムよくこだまする会場内

３選手たちの背に声援を向け、一緒に戦う仲間たち

４ネットを挟んで対峙する両選手。相手をどう打ち崩すか、頭の中では、さまざまな戦略を組み立てています

大崎地域を世界農業遺産へ

Vol.12　大崎地域を世界農業里地・里山の保全と大崎耕土の恵み⑧

「厳しい自然環境に対応した米づくり」遺産へ

「やませ(夏に吹く冷たく湿った北東風)」などにより、冷害が頻発する大崎地域の稲作では、古くから「（良い苗を育てれば稲作の半分は成功したとの意）」と言われ、いかに丈夫な苗を育てるかが重要とされてきました。

　昭和20年ごろまで、苗づくりのほとんどがで、低温時の育苗障害が課題でした。その後、保温資材の開発と共に苗代が普及して早植えが可能となり、増収に結びつきました。また、水かけや温度管理が楽で、病害の発生が少ない「プール」も行われています。

　さらに、昼の低水温を避けるためを止める「」や稲の穂が出る少し前の低温対策としての「」などの技術にも取り組まれてきました。

　また、「ひとめぼれ」や「ささ結※」などの耐冷性が高くの品種の導入など、冷涼な気候に適応する絶え間ない努力のもと、米づくりの知恵が育まれています。

世界農業遺産勉強会（第6回）

日時：7月3日日曜日　13時～15時

場所：色麻町農村環境改善センター

内容：大崎地域上流域の農業と暮らし(仮)

講師：大河原 基典 氏(色麻町社会教育課学芸員)ほか

定員：50人

申込：6月24日金曜日まで、産業政策課世界農業遺産推進室へ、電話かメールで申し込み

【問い合せ先】産業政策課世界農業遺産推進室 　電話23-2281　[メールsangyo@city.osaki.miyagi.jp](mailto:メールsangyo@city.osaki.miyagi.jp)

市長コラム　天地人

熊本地震へ支援を!!

「平成28年熊本地震」でお亡くなりになられた皆様に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様へ心からお見舞い申し上げます。

　また、被災地の支援のために、ご尽力なされている皆様に深く敬意を表します。

　被災地では、余震が連鎖的に続いており、多くの人々が不自由な生活を強いられ、不安な日々を過ごされていることに、胸が締め付けられる思いです。

　５年前に東日本大震災を体験したわたしたちにとっては、今回の地震は決して他人事ではなく、東北から継続的に支援していかなければと思っております。

　市では、災害時医療派遣チーム「ＤＭＡＴ」隊や看護師隊、支援職員隊を派遣し、長距離避難の受け入れを申し入れており、市民の義援金も募っております。

　わたしも、危機管理監とともに、職員を派遣した熊本県益城町と市役所本庁舎が損壊した市、連鎖地震などで風評被害に見舞われている大分県湯布院温泉と竹田市を見舞い、激励してまいりました。

　日本には２０００を超える断層が至るところにあり、いつ、どこで、巨大地震に襲われてもおかしくないことを、改めて思い知らされた今回の熊本地震。

　阪神淡路大震災や新潟中越地震などの大災害を乗り越え、今まさに東日本大震災からの復興に必死に取り組んでいるわたしたちは、今こそ心をひとつに「オール日本」で、防災・減災対策を一層強めていかなければなりません。

　がんばれ 熊本・大分！祈　復旧・復興！

大崎市長　伊藤　康志